

ばんたね ネットワーク

発行年月日 平成29年2月1日 URL <http://www.fujita-hu.ac.jp/HOSPITAL2/>

編集・発行 藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院 広報委員会(ばんたねネットワーク編集グループ) 中田 誠一・乾 和郎

〒454-8509 名古屋市中川区尾頭橋3-6-10 TEL : (052) 321-8171 (代)

医療連携センター TEL : (052) 323-5927・5918



巻頭の挨拶

新病棟とともに断らない総合診療を基盤とする専門性強化型急性期病院を実現 病院長 井澤 英夫



日頃より病診連携登録医の先生方には、多大なご指導、ご支援を賜りまして心より御礼申し上げます。

平成 28 年 6 月 19 日に、待望の新病棟がオープンいたしました。当日は大村愛知県知事をはじめ多くの来賓がご臨席の中、愛知県医師会長の柵木先生や名古屋市医師会長の杉田先生方によるテープカットが行われ盛大に新病棟のオープニングを飾ることができました。また、2 時間という短い時間にもかかわらず、新病棟内覧会に病院周辺の皆さんが 500 人以上もお越し頂き、一時は雨の中で行列を作ってお待ち頂くほどの盛況でした。病院スタッフ全員が感激するとともに、地元の皆さんの当院への熱い期待を改めて感じました。

永年、当院は「バンタネさん」と地域の皆さんから親しみと信頼を込めて呼ばれて参りました。今後も地域の皆さんが必要とする医療を提供し続けることが当院の最大の使命と考えています。地域基幹病院として日本におけ

る標準的な医療を提供する一方で、大学病院として高い手術成功率、高い治療成功率に基づいた安全な医療を提供してまいります。24 時間いつでも、どんな症状でも、何科にかかったらいいかわからなくても、「とりあえずバンタネさんに行けばなんとかしてもらえる」、「とりあえずバンタネさんに紹介すれば大丈夫」と、地域の皆さんや病診連携登録医の先生方から引き続き信頼を寄せいただけるように努力してまいります。少子高齢化や老人独居率が進む日本における地域病院のモデルとなるような決して断ることのない総合診療を基盤とする日本一の地域病院を実現してまいります。

新病棟は地上 9 階で、現在の病院東側敷地に建設しました。1 階はエントランス、救急外来、2 階は ICU、検査部門、3 階はリハビリテーション科、4 階から 9 階は一般病室になっています。病室は、1 床あたりの面積を拡充するとともに、27 室の個室を設けるなど、入院患者さんの療

養環境向上に配慮しました。また、リハビリテーション科は、リニューアル以前と比較すると面積を 519.5m² に拡大し、機器も増設するなど利便性を高めています。1 階には 24 時間利用可能なファミリーマートとドトールコーヒーを設置しアメニティも大幅に改善されました。さらに、今年度末までに最新鋭超高速 320 列 CT 装置の増設と既存 CT の更新、脳卒中や心筋梗塞の緊急手術に使用する血管撮影装置の更新、救急外来の面積を 2 倍以上へ拡張する等の追加整備を予定しています。

当院は、愛知県で 20 番目の「地域医療支援病院」申請を来年度に目指しています。申請要件の最大のハードルである紹介率 50% 以上、逆紹介率 70% 以上を昨年度、1 年間を通して達成することができました。病診連携登録医の先生方の多大な御指導のお陰と御礼申し上げる

とともに、病診連携登録医の先生方との緊密な連携、厚い信頼関係ができていく証明でもあると考えます。幸いにもインターネットによる外来診療予約システム、電子カルテ閲覧システムは多くの先生方からご好評の声を頂戴しております。引き続き、医師だけでなく、地域医療の病院窓口である地域医療連携センター、実際に紹介された患者さんが受診された時に手続きを取る外来窓口や診療科の受付、会計窓口、薬局での円滑な事務処理や接遇、さらに、検査や治療を受ける際に直接患者さんと接するコメディカルスタッフの能力向上に引き続き努力して参ります。

今後も病院周辺地域の皆さんから愛され信頼される病院として歩んでいきます。超高齢化社会を迎える2025年に向けて医療体制の再構築が進められていますが、当院は地域医療ネットワークの核として機能しなくてはなりません。地元の皆さんの健康を守り、地域の信頼に応えられるように病院一丸となって努力してまいります。決して断らない「地域と共生する総合診療を基盤とした専門性強化型急性期病院」を新病棟と共に実現して参ります。

病診連携登録医の先生方には、当院へのなお一層のご指導、ご支援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

<病棟構成>

	病床数	診療科
9F	60床	循環器内科・内分泌内科・産婦人科
8F	60床	消化器内科・小児科
7F	60床	呼吸器内科・眼科・麻酔科・皮膚科
6F	60床	脳神経外科・耳鼻咽喉科・神経内科
5F	60床	整形外科
4F	60床	外科・泌尿器科・形成外科・腎臓内科
ICU	10床	
370床		



病棟スタッフステーション



新病棟外観

新しい受付窓口

受付窓口のご案内

●入院受付・入院会計

月～金：8：45～17：00

土：8：30～12：00

入院手続き・退院会計・面会案内・入院に関するご相談を承っております。



●紹介受付

月～土：8：30～11：30

紹介状 / 電子媒体 (CD-R・DVD) をお持ち頂いた患者様の受付を承っております。
(紹介状を持参頂いた方を優先してご案内いたしております)

●外来受付

月～土：8：30～11：30

再来受付・保険証の確認・紹介状を持参されていない方・名古屋市の健診を予約いただいた方の受付を承っております。

●外来会計

月～金：8：45～17：00

土：8：45～13：30

外来診察が終了された方の会計を承っております。病院駐車場を利用された方の割引も行っております。

●救急・時間外受付

救急車で搬送される方

・休日または受付時間外

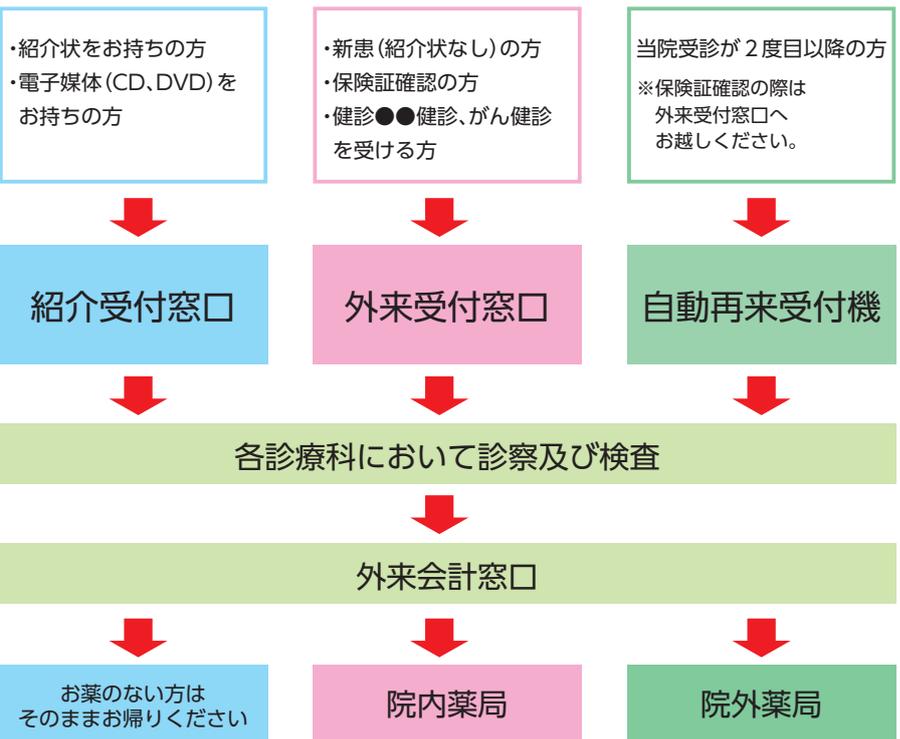
通常の診療時間以外に救急で受診を希望の方の診察を行っております。

受診を希望の場合は事前にお電話にてご連絡いただくようお願いいたします。



外来受診される患者さまへ

受付時間(月～土) 8:30～11:30 (※自動再来受付機は7:00より開始)



(担当部署：医事課)

新棟がオープン

新棟がオープンしました

平成28年7月1日に新棟がオープンとなりました。一般病棟は360床（6病棟）、ICUは10床で、新たなスタートをきりましたのでご紹介いたします。

新棟は171床あり、病室は4人床、2人床、個室の構成となっております。内装は木目調を基調とし落ち着いた雰囲気になっております。新棟の廊下からは名古屋駅のツインタワーや名古屋の夜景などの眺望が楽しめます。

《設備について》

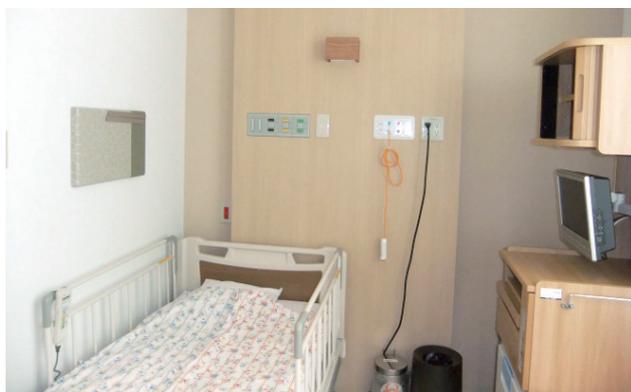
<特別病室>

4F、5Fに1部屋ずつ設置され、24.29㎡の広さがあります。部屋の内装は、落ち着いた雰囲気の色調でホテルの客室をイメージした造りとなっております。設備は浴室・洗面・トイレ・調理設備、冷蔵庫、応接セット、リクライニング椅子、テレビ2台（50インチ1台、19インチ1台）ブルーレイレコーダーなどを設置しております。面会にいらっしゃった方やご家族ともゆっくりくつろいでいただけるお部屋となっております。



<個室>

洗面、ユニットシャワーを設置し、ソファ、冷蔵庫を備え付けており、ソファは付添が必要な場合は、ベッドとして使用できるようになっております。



<4人床・2人床>

全ての部屋に自然な光が差し込む明るい部屋となっております。4人床全てに洗面所を設置し、感染防止対策を考慮した設備となっております。



<重症療養部屋>

スタッフステーションに隣接し、重症患者の観察が行いやすい設備となっており、異常の早期発見、早期対応ができます。



<ラウンジ>

窓が大きく、眺めのよい落ち着いた雰囲気のある空間です。面会の方と歓談、食事などにご使用いただけます。港まつり、熱田まつりなど花火もお楽しみいただけます。



<洗髪台>

全ての病棟に洗髪台を設置しています。ベッド上臥床の方、車いすの方など自分で洗髪ができない方の清潔ケアの充実が図れるようになっております。



<機械浴>

6F 病棟に臥床患者の入浴ができる設備を備え、清潔ケアの充実が図れるようになっております。



看護体制は 7 対 1 の看護師配置、夜間は 4 名から 5 名を配置しております。PNS(パートナー・ナーシング・システム)を導入し、看護師 2 人で患者対応を行うことで、安全で安心な看護の提供に努めております。

『ICU が新しくなりました』

7 月の新棟開設に伴い、ICU も 4 床から 10 床へ増設されました。ベッドの振り分けは、個室が 3 床、オープンベッドが 7 床となっており、個室を含む 5 床が透析にも対応できます。

設備としては、クラス 1 万のヘパフィルターを完備しており、常に ICU

内の空気の清浄化を維持しています。また、個室においては陰圧・陽圧の切り替えが可能となっております。

特に今回の改築によって変更された点は、手術室と ICU の経路が確保されたことにあります。これによって直接手術室から ICU への入室が可能となり、術後患者さんのより安全な患者移送が行えるようになりました。

ICU はクリティカルな状況におかれている患者さんとそのご家族の治療やケアを行う場です。ICU スタッフは、毎朝担当医師とカンファレンスを行い、状態の変化しやすい患者さんの状態把握と異常の早期発見に努め、2 対 1 看護体制のもと多職種

と協力し、生命の危機を予測して防ぎえた死を回避し、また社会復帰に向け早期からの離床に取り組んでいます。

緊迫した環境の中でも、思いやりと優しさをもって、楽しく働くことを大切にしています。

おわりに

新棟がオープンし、新しい病棟での再スタートを切っております。患者さんの入院環境を整え、安全・安心した良質な医療・看護が提供できるよう、全職員で努力してまいります。

(担当部署：看護部)

新しい救急体制

ばんたね病院の救急科は平成25年7月1日に発足しました。いつも地域の皆さんには良くしていただき深く感謝申し上げます。芳野前院長、井澤現院長、寺田救急部長はじめ院内全ての部署の方々の協力により、今日までやってまいりました。

当初は救急科の医師は小生1人であり、最初の約2年間は昼間の救急搬入患者と午後からのウォークイン患者の診療を行って来ました。1年目の後半からは医師が1名加わり、昨年(平成27年)5月からは豊明の本院の救急総合内科から2名の医師が補充され合計4名の医師が揃いました。現在平日は22時まで土曜日は17時まで救急科の医師が救急外来に詰めているかたちとなっております。それ以外の時間については、内科系の医師1名、外科系の医師1名、および研修医の合計3名が救急外来の業務を行っております。また月に数回あります小児科および耳鼻咽喉科の当番があたっている日についてはそれぞれの科の医師が当直に入っております。

さて、本年7月から救急外来も新棟の1階に移りました。写真は現在運用中の処置室の様子です。エコー、无影灯、心電図計、除細動器、モニター、などが揃えてあります。救急車で来られた方はまずここで診察を



ER

行います。バイタルサインを測定し、必要に応じて採血および静脈ルートの確保、などの処置を行います。エレベータがすぐ近くにありますが、画像検査を行う場合には、以前よりは迅速に地下のレントゲン撮影室・CT室へゆくことができるようになりました。

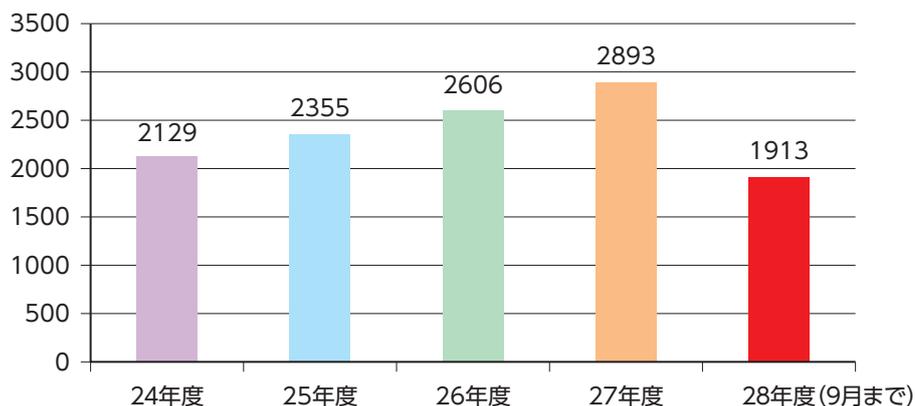
さて、現在ばんたね病院全体として救急外来を充実させるようにという意識が高まっております。井澤院長の号令のもと、救急科の医師だけでなく当直に入る外科系・内科系の医師も同じ気持ちです。受け入れる救急車の台数は年々増加しておりまして、村瀬が

赴任する前後で比較してみても、平成24年度2,129台、25年度2,355台、26年度2,606台、27年度2,893台です。28年度も現在までのところ増加傾向です。

最後に皆さんにお願いがございます。救急科の医師は救急車あるいは正規の各診療科の外来受付時間を過ぎて来院された方の診療を行っております。入院を要するような傷病者については、各科の医師へ依頼しております。患者さんを紹介していただく医療機関におかれましては、事前に地域医療連携センターへ連絡を入れていただくことを原則としてお願いしたいと思います。CTがないと診療できない患者さんがCTの使えない時に連絡なしでいらっしゃる、あるいは、当該診療科の医師が不在時に連絡なしで来院される、といったことが時にあります。何とか診療可能な病院を探して案内申し上げるようにはしておりますが、疼痛や発熱で苦しんでおられる傷病者の場合には、患者さんに大変なご迷惑をおかけすることになり本当に気の毒に思います。何卒よろしく願いいたします。

(文責：村瀬吉郎)

受け入れる救急車の台数合計



新リハビリテーションセンター完成

平成 28 年 6 月に東向き大きなガラス窓から光が差し込む明るい新リハビリテーションセンターが完成しました。540㎡あり、PT 室・OT 室の隔たりがなく入口から一面を見渡せます。患者様からも「明るくなった」「広々して気持ちがいいね」と好評を頂いています。3つの ST 室をセンター内に設けたことで、シームレスな接続が実現し、コミュニケーションが容易となりました。



新リハビリテーションセンター



ハーネスを装着した歩行練習

転倒の危険性が高い患者様には、ハーネスを装着し天井のレールと連結して、安全に歩行練習を行うことが可能です。トイレ動作や調理、洗面はさまざまな身体状況に合わせた実践的な練習を行える設備を整えました。

当部門は整形外科疾患、神経・筋疾患、内科疾患など幅広い疾患に対

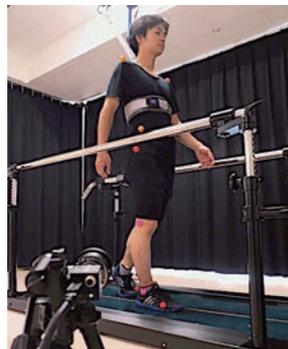
応しています。特に(1)嚥下障害、(2)痙縮、(3)筋電図・神経伝導検査、(4)心臓・呼吸リハビリテーションで専門性を有しています。

(1) 嚥下障害を判断するために、スクリーニング検査から嚥下造影検査(VF: Videofluoroscopy)や嚥下内視鏡検査(VE: Videoendo-scopy)はもちろんのこと、咽頭内圧検査(マノメトリー)や咽頭周囲の筋電図検査も行っています。検査結果をもとに摂食嚥下訓練を実施するとともに、患者様それぞれに応じた食形態や姿勢を提案します。



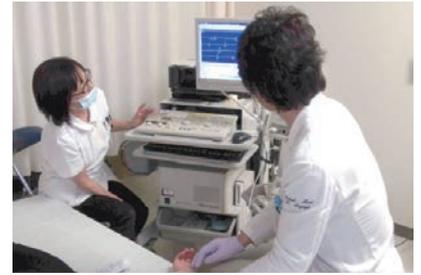
嚥下造影検査 (VF)

(2) 痙縮(筋緊張が亢進した状態)に対しては、ボツリヌス毒素やフェノールブロックを使用したボツリヌス療法・神経ブロックを行います。施注前と施注後に身体評価を行い、施注部位の決定や効果判定を行います。歩行評価は三次元トレッドミル歩行解析やシート式下肢加重計を用いて正確に行っています。



三次元トレッドミル歩行解析

(3) 筋電図・神経伝導検査では、整形外科疾患、神経内科疾患の神経・筋の障害の有無、またその程度を判断し、回復過程を予測して今後の治療に活かします。



筋電図・神経伝導検査

(4) 当院では心臓リハビリテーション指導士、3学会合同呼吸療法認定士が在籍しており、心臓・呼吸リハビリテーションの取り組みを強化しています。心不全や急性心筋梗塞後の早期からリハビリテーションを開始し、リスク管理を行いながらパスに沿ってチーム医療ですすめます。心肺への適切な負荷量を決定する目的で、心肺運動負荷試験(CPX: Cardiopulmonary exercise test)を実施し運動メニューを決定します。慢性呼吸不全や閉塞性肺疾患は、活動内容に合わせた呼吸法の指導、呼吸筋のみならず上下肢の筋力増強も積極的に行っています。



心肺運動負荷試験 (CPX)

リハビリ部門スタッフ総勢 40 名が、入院・外来リハビリテーションを提供し、1日平均 290 名、年間延 77,000 名を治療しています。

必要な評価をいつでも客観的に実施可能な環境が整い、実際の動作に繋がるリハビリテーションを提供しています。

高い QOL が実現できるよう支援させていただきますので、専門性を必要とする患者様がいらっしゃいましたら、ぜひご紹介頂きますと幸いです。

(文責: 粥川知子)

検査はすべて ワンフロアで

今までは、採血、生理検査（心電図・肺機能）、超音波、筋電図などを行う部屋が別々の階にありましたが、新棟の2階に集中して配置されました。また、採血室が検体検査室の前になったため、採血してからすぐに測定機にかけることができ、結果を迅速に報告することが可能になりました。

検査受付

採血・採尿の受付を対人で行うだけでなく、自動受付機で行うことができるようになりました。患者さんは診察券を受付機に差し込むだけで採血整理番号券が出力され、尿検査がある場合は採尿コップも同時に提供できるようになりました。



検査受付



検査受付前の待合



自動受付機

採血室

採血室には整理番号が表示される採血台を3台導入しました。採血中の番号が表示されますので、自分の順番がわかりやすくなりました。また、採血室の中には、待合椅子以外にも、気分が悪くなった方や子どもの採血ができる専用のベッドを確保しましたので、安心して採血していただけます。



採血室

心電図検査室・肺機能検査室

心電図と肺機能を行うための専用の検査室ができました。心電図は2台のベッドを広いスペースに設置することができ、車椅子の方や点滴をされている方のベッドへの移動がスムーズに行えるようになりました。肺機能検査室では肺活量だけではなく、呼吸抵抗、呼気一酸化窒素測定、可逆性試験、薬剤吸入試験、肺拡散能力などの検査をすべて同じ場所で行うことができます。



心電図検査室



肺機能検査室

循環器系検査室

循環器系検査室には、超音波検査（心臓、頸動脈、体表）と運動負荷検査（トレッドミル・エルゴメーター）を1室に集中しました。運動負荷検査は専用の検査室ですのでプライバシーが十分に保護されます。また、とくに心電図検査室がありますので検査中に不整脈が発生した時でも、速やかに解析することが可能です。

心臓超音波検査には循環器内科医が常駐しており、リアルタイムに診断しています。異常がある時には診療の計画を早くすすめることができ、また、緊急を要する所見がある場合には、医師による速やかな処置が可能です。心不全の治療を行っている方には、医師の指示で下肢陽圧負荷検査を行い、治療効果が十分に得られているかの確認を行うことができます。



運動負荷検査



超音波検査

筋電図検査室

筋電図を行うための専用の検査室ができました。神経伝導速度検査だけでなく、医師といっしょに針筋電図検査、ボトックス検査などを行っています。針筋電図検査では超音波検査装置を用い、筋肉をリアルタイムに確認しながら穿刺することで、安全性を高めています。



筋電図検査室

PSG 検査室

PSG（睡眠ポリソムノグラフィー）検査は睡眠時無呼吸症候群をはじめとする睡眠障害を正確に診断するための検査です。当院では幼小児から大人までの睡眠障害全般の検査を行っています。睡眠中のいびき・無呼吸が特徴の睡眠時無呼吸症候群をはじめ、睡眠中に脚が動いてしまう、なかなか寝付けない、十分睡眠をとっても眠い、睡眠中の異常行動（レム行動異常症、夜驚症など）といった睡眠障害全般の検査も実施してい



PSG 検査室（大人）



PSG 検査室（小児）



モニター室

ます。このたび完全個室になり、周囲の雑音を気にすることなく、また、プライバシーを侵害されることなく検査が実施できる環境が整いました。各部屋で温度調整ができる空調設備はもちろん、小児のための付き添いベッドのスペースも十分に確保されています。日中の眠気を検査する反復睡眠潜時検査（MSLT）も個室になりましたので、周囲を気にすることなく検査を受けていただけます。さらに、PSG 検査室のとなりに検査専用モニター室が完備しており、検査状況を把握することで、より安全で質の高い検査記録が可能になりました。

当院では以前から小児における睡眠時無呼吸の検査に取り組んでおり、国内でもトップクラスを誇る検査件数があります。また、DPC 病名からみた睡眠時無呼吸症候群の治療実績は全国 1 位（2014 年度）になっています。睡眠障害を疑う患者さんがみえましたら、ぜひ当院をご紹介します。

エコー室（腹部超音波検査室）

エコー室は 2 部屋あり、腹部超音波検査を行っています。それぞれ完全個室になっており、プライバシーに配慮した検査を実施することができます。また、広いスペースを確保



腹部超音波室



説明室

しているため、車椅子だけではなくベッドでの入室も容易に行うことが可能です。

最新の機械を導入しており、通常の超音波検査に加え、造影超音波検査やエコーガイド下針生検、肝硬度測定も実施することができます。すべての検査を消化器内科医が行い、安全で信頼性の高い検査を提供しています。また、個室の説明室が隣接していますので、プライバシーに配慮しながら検査結果をすぐに説明することができます。

内視鏡検査

内視鏡検査を行う部屋が 3 室となり、それぞれ独立した部屋でプライバシーを侵害されることなく検査が実施できる環境が整いました。また、検査後休んでいただけるように回復室を新設しました。鎮静剤を使用して検査を受けた患者さんが、静かな環境で休めるよう配慮されています。

さらに、新たに UPD-3 を導入しました。従来、下部内視鏡検査では内視鏡挿入形状は X 線透視を利用して確認していましたが、本装置を利用することで、術者・患者の被爆がなく、リアルタイムの 3 次元的な挿入形状の表示が可能となり検査が円滑に行えます。



内視鏡検査室



UPD-3

地域医療連携センターとは

地域医療連携センターとは地域医療センターには主に二つの役割があります。一つは地域の医療機関との円滑な連携事業を行う「前方支援」の役割、もうひとつは療養に関する患者さんご家族への社会福祉相談、療養の場の選択をお手伝いする「後方支援」の役割です。

「前方連携」：ご紹介いただいた患者さんの診療・検査事前予約、セカンドオピニオン予約や地域医療機関の先生方に当院の診療情報を閲覧いただく「藤田医療情報ネットワーク」のご案内などを行っております。

「後方連携」：外来・入院を問わず、患者さんとそのご家族への社会福祉相談や後方病院、在宅医療施設、訪問診療医、ケアマネジャー等と連携した転院・退院に伴う療養支援を行っております。これらの役割を地域医療連携センター内において「医療連携室」「医療福祉相談室」に加え4月から「退院支援室」を新たに設置し、センター長、副センター長（医師）を中心に3つの室が連携して役割を担っております。

①医療連携室

（スタッフ：医療事務5名）

地域医療機関との円滑な連携と発展を目指し、地域における当院の役割と機能に応じた紹介患者さんの受け入れ、紹介いただいた医療機関への受診・経過報告や情報提供を行い、地域の先生方とのパイプ役として地域医療を推進しております。

【主な業務】

- ・医療機関からの紹介状予約受付
- ・受診経過報告書や診療情報提供書の返信作業
- ・患者情報照会 など

【診療・検査事前予約のご案内】

医療連携室では、ご紹介いただいた患者さんについて、よりスムーズに診療を提供できるよう、電話、FAX、インターネットによる申し込みにおいて診療・検査事前予約を承っております。

※電話での申し込みの場合、当院の診察券をお持ちの方は、電話連絡のみで予約手続きが完了いたします。FAX申し込みの際は当院ホームページより「ファクシミリ診療（検査）予約申し込み書」をご利用ください。インターネット予約には病院IDとパスワードが必要となります。ご

利用を希望される先生方は地域医療連携センター医療連携室までご連絡ください。

②医療福祉相談室

（スタッフ：医療ソーシャルワーカー4名）

患者さんご家族が住み慣れたご自宅や地域での療養生活が継続できるよう外来・入院を問わず社会福祉相談・支援を行っております。住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が求められている現在、地域で生活を送る患者さんへの医療福祉支援は地域から医療機関へ求められる役割のひとつと考えます。当院に受診をされている患者さんやご家族でお悩みを抱えている方がいらっしゃいましたら、医療福祉相談室をご案内いただけますと幸いです。

【主な業務】

- ・患者さんご家族の療養生活に関する社会福祉相談
- ・退院後の療養の場を選択するための相談
- ・地域医療福祉関係機関との連携など

③退院支援室

（スタッフ：退院支援看護師1名）

平成28年4月1日に新たに開設された、退院支援を専門とする看護師の常駐する室です。

退院支援室では、患者さんが治療を受けながら安心して在宅生活を過ごすことができるよう病棟配置の退院支援専従看護師と情報を共有し、積極的に在宅療養支援ができるよう看護提供をしております。

【主な業務】

- ・退院支援における病棟専従看護師との患者さんのタイムリーな情報共有。
- ・自宅退院に関わるケアやサービスに関する調整。
- ・院内多職種との連携による療養支援。

地域医療連携センター 組織図



専従退院支援看護師の配置

専従 看護師 A	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消化器外科、小児外科、泌尿器、形成外科、腎臓内科 ・ 整形外科 <p style="text-align: center;">I C U</p>
専従 看護師 B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 脳神経外科、神経内科、耳鼻咽喉科 ・ 呼吸器内科、皮膚科、眼科、麻酔科
専従 看護師 C	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消化器内科、小児科 ・ 循環器内科、産婦人科、内分泌内科

地域医療連携センターの取り組み

地域医療連携センターは新たな取り組みとして地域医師会との連携推進ならびにインターネット端末による当院の診療情報（患者基本情報、処方、検体検査結果、放射線画像、検査所見など）を無料で閲覧いただくシステムなど構築しております。

【名古屋市医師会との連携】

・名古屋市医師会との連携を強化し、在宅医療・介護システムの構築を目指しております。在宅患者さんの急変時の臨機応変な対応をはじめ、在宅移行していく患者さんの適切な評価のもと、情報共有、連携ができるように努めております。

【名古屋市歯科医師会との連携】

・名古屋市歯科医師会との新たな連携を推進し「周術期患者口腔管理

医療連携事業」を展開できるよう準備をしております。これにより手術を受ける患者様が安心して手術に臨んでもらえるよう手術前後に口腔ケアを地域の歯科医の先生方と連携をしていきたいと考えております。

【藤田医療情報ネットワーク】

・「藤田医療情報ネットワーク」とは、SEC社の「ID-Link」というサービスにより、お手持ちのインターネット端末から当院の診療情報（患者基本情報、処方、検体検査結果、放射線画像、検査所見など）を無料で閲覧していただくシステムです。ご希望をされる先生方は、地域医療連携センター医療連携室までご連絡ください。

地域医療連携センターでは、地域の医療機関をはじめ保健・介護・福祉など関係機関との円滑な連携を目指し、皆様に信頼される病院の顔として地域連携につとめていきたいと思っております。今後ともご指導賜りますようお願い申し上げます。



薬剤部

当院の薬剤部は、現在薬剤師16名で、外来および入院患者さんの調剤をはじめ、化学療法及び高カロリー輸液の調製、入院患者さんのための注射薬調剤、病棟の薬剤管理指導、薬剤に関する問い合わせの対応等の医薬品情報提供業務、治験の業務などを行っています。

調剤室では、1日平均200枚の処方箋調剤を行っています。調剤過誤、投薬ミスがないよう絶えず注意をし、入院患者さんのお薬は、必要に応じ病棟担当薬剤師が患者さんに直接お渡しし、説明するようにしています。新病棟でも、引き続き安全で良質な薬物療法の提供を目指します。

【投薬窓口】

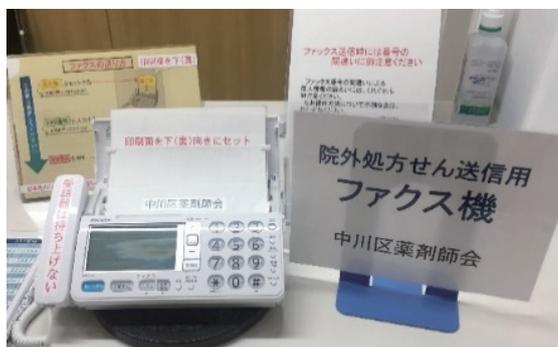
外来院内処方箋、時間外処方箋は薬剤部投薬窓口にて払出します。



【院外処方せん送信用ファックス機】

院外処方箋発行率は約85%で、中川区薬剤師会や保険薬局への情報提供は随時行っております。

外来会計横に、中川区薬剤師会から提供されている院外処方せん送信用ファックス機を設置しております。



【病棟用ワゴン】

新病棟への移動に伴い、新たに注射薬自動払出装置を導入しました。

注射薬にはアンプルやバイアルなどがありますが、それぞれをカセット内にストックすることができ、処方に応じて複数種類の薬品を組み合わせることでセットされます。薬品や患者さんについての必要な情報がプリントされたラベルも同時にセットされ、各病棟へワゴンで払出します。



【注射薬自動払出装置】

注射薬管理室では、現在1日平均300枚の注射箋を患者さん毎にセットし、各病棟に配薬しています。

(文責：小池麻由)

